■ 平成８年度事業概要 ■

Ⅰ　文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

寄附行為第４条第１号に掲げる事業は、次のとおり行った。

●寄贈資料受入れ総数(図書・雑誌及び特別資料)　5,618点
●購入図書・雑誌　1,305点
●その他の購入特別資料　93点
●レプリカ作成・VTR、テープ　32点

(別掲の統計・資料編「資料収集状況」欄参照)

整理・保存　カード作成及び寄贈・寄託目録等作成
閲　　覧　利用者　延べ5,548人

Ⅱ　文学に関する展覧会・文芸講演会等の開催事業

寄附行為第４条第２号に掲げる事業は、次のとおり行った。

1　展覧会事業

(1)　常設展　「北海道文学の流れ」

会　期　通年（292日間）
会　場　北海道立文学館常設展示室
入場者　13,491人

展示の構成・内容は、前年度の開館時にセットしたとおりで推移したが、以下にその基本的な要素を掲げて記録とする。なお、〔　〕内は監修者名を示す。

〈札幌農学校と有島武郎〉〔高山亮二〕

このコーナーでは、ウィリアム・Ｓ・クラークの事蹟によって広く知られている札幌農学校（現、北海道大学。明治９年開校）の存在と活動を紹介するとともに、その農学校に学び、のちに母校の教壇に立って多くの後進を育成し、文学者・思想家として日本近代史に刻まれる仕事を残した有島武郎について、内村鑑三、新渡戸稲造、森本厚吉、ティルダ・ヘックらとの交流を含め、通算12年間にわたる本道在住期の足跡を概観した。

〈北海道文学の流れ―明治・大正期〉〔木原直彦〕

このコーナーで取り上げた主な文学者・関連人物名、事項名は次のとおりである（以下同）。

＊「空知川の岸辺」国木田独歩
国木田独歩、佐々城信子
＊開拓期を彩る作家群
岩野泡鳴、幸田露伴、長田幹彦、島崎藤村、葛西善蔵、徳冨蘆花ほか
＊漂泊の人・石川啄木
石川啄木、石川節子、橘智恵子、野口雨情ほか
＊有島武郎をめぐる人々
有島武郎、有島生馬、里見弴、武者小路実篤、志賀直哉
＊道産子作家誕生

武林無想庵、岡田三郎、森田たま、中戸川吉二、中村武羅夫、子母沢寛、素木しづ、長谷川海太郎

＊同人雑誌群

「路上」「路傍人」「君影草」「白夜」「歩み」ほか

＊来道作家の足跡（大正期）

文学地図（足跡図）―吉屋信子、宮本百合子、橘外男、宮沢賢治、宇野千代、長田幹彦、久米正雄ほか

〈北海道文学の流れ―昭和前期〉〔西村信〕

＊プロレタリア文学の潮流

葉山嘉樹、小林多喜二、久保栄、小熊秀雄、島木健作、本庄陸男ほか

＊若い詩人の肖像

伊藤整、川崎昇ほか

＊来道作家の足跡（昭和前期）

芥川龍之介、里見弴、鶴田知也ほか

＊農民文学の世界

吉田十四雄、辻村もと子、板東三百、早川三代治、坂本直行ほか

＊戦時下の文学

林容一郎、中津川俊六、八木義徳、寒川光太郎ほか

〈北海道文学の流れ―昭和後期〉〔神谷忠孝〕

＊戦後文学の展開

風巻景次郎、武田泰淳、宇野親美、中沢茂、澤田誠一、木野工ほか

＊さまざまな座標Ⅰ

船山馨、亀井勝一郎、八木義徳、和田芳恵、長谷川四郎、李恢成、重兼芳子、高橋揆一郎、小檜山博ほか

＊旋風をおこした作家たち

原田康子、三浦綾子、渡辺淳一

＊さまざまな座標Ⅱ

荒巻義雄、藤堂志津子、佐藤泰志、川又千秋、佐々木譲、土居良一ほか

＊来道作家の足跡（昭和後期）

福永武彦、戸川幸夫、新田次郎、水上勉、開高健、大江健三郎ほか

＊活躍する作家たち

三浦清広、加藤幸子、沖藤典子、久間十義、見延典子、辻仁成、谷村志穂

〈北海道の詩〉〔永井浩〕

＊草創期

児玉花外、高村光太郎、三木露風、宮沢賢治、北原白秋

＊生成期

更科源蔵、吉田一穂、左川ちか、猪狩満直、鈴木政輝、加藤愛夫、和田徹三ほか

＊戦争と詩

百田宗治、今井鴻象、鷲巣繁男、三谷木の実、牧章造ほか

〈北海道の短歌〉〔田村哲三〕

＊北海道歌壇の動き

山下秀之助、酒井広治、小田観螢、中城ふみ子ほか

＊来道歌人

斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか

＊口語短歌

鳴海要吉、石川啄木ほか

＊アイヌの歌人

バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

＊北方俳句の夜明け

松窓乙二、河東碧梧桐、牛島滕六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか

＊俳句近代化への潮流

荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐錬太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか

＊花ひらく北の俳句

斎藤玄、寺田京子、比良暮雪、佐々木丁冬ほか

＊俳句の現代

比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔藤本英夫〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

＊明治～昭和前期

鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか

＊昭和後期～平成７年

西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子

＊北海道の川柳社

道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

＊明治～昭和20年代

伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか

＊昭和30年代

石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか

＊昭和40年代以降

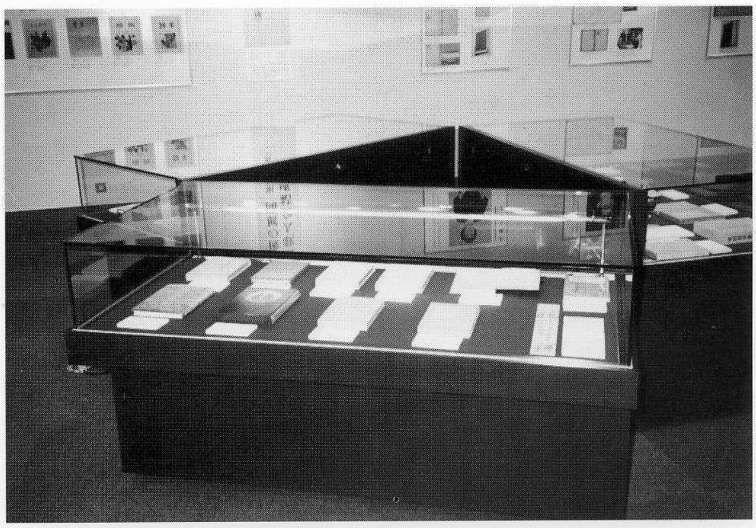
加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕
夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

(2) 特別企画展

●「北海道の俳句－戦後50年の歩み」

会　期　　平成８年５月24日(金)～６月30日(日)　(33日間)
会　場　　北海道立文学館特別展示室
入場者　　1,249人



俳句展は「風土と季語」、「戦後の新しい風」、「現代作家群」、「俳句協会の歩み」、「主な来道俳人」の５つのコーナーに分けて展示した。その他に観覧者による「投句ポスト」や「北海道俳句の50年史年表」なども展示した。

「風土と季語」のコーナーでは北海道独自の季語16を、それに合う写真パネルとともに選び、壁面を飾った。またその季語のおりこまれている代表的な句を48句展示した。

「戦後の新しい風」、および「協句協会の歩み」のコーナーでは、北海道俳句の50年史を協会の歩みと共に一望できるように展示した。特に戦後の混乱期からの俳句史には多くの貴重な資料も展示し、人目を引いた。

「現代作家群」では８人の物故者の写真パネルを中心に、現在道内で活躍している36人の作家の俳句や著書を展示した。

「主な来道俳人」のコーナーでは戦後の北海道俳壇に強い影響を与えた著名な作家16人を展示した。写真パネルと共に短冊、色紙、掛け軸など貴重な資料を展示し、好評を得た。

(資料等の出品目録は「図録」添付につき省略)

●「久保栄と北海道～激動の時代を生きた劇作家の軌跡～」

会　期　　平成８年10月１日(火)～11月10日(日)　(34日間)
会　場　　北海道立文学館特別展示室
入場者　　1,248人

1900年(明治33年)に札幌に生まれ、戦前・戦中・戦後期を通じて、文学史・演劇史に大きな足跡を残した久保栄の人と作品を北海道とのかかわりを中心に取り上げ広く紹介した。

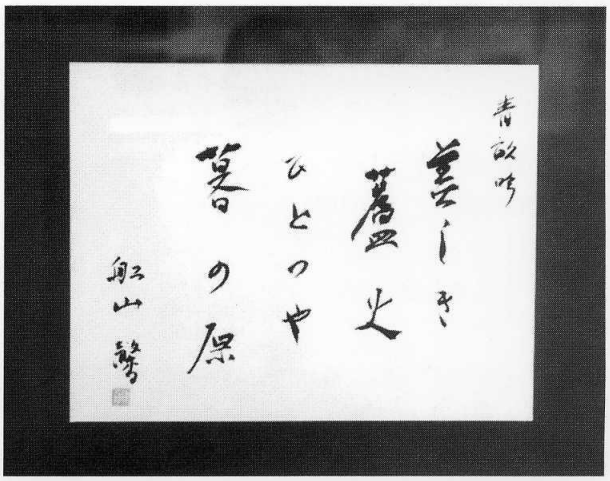
本展では、久保マサ氏提供の久保栄関係資料約80点も展示したが、この中には、これまで公開されなかった戦中期の資料も多く含まれていた。

また、生前の久保栄の肉声テープや、名優宇野重吉の朗読テープ、さらには久保栄の生涯をまとめたスライドなどによる「音と映像でつづる久保栄」コーナーを設けるなど、初めて久保栄にふれる人にとってもわかりやすい構成になるよう心がけた。

戯曲『火山灰地』や『五稜郭血書』はじめ、代表作の直筆原稿、初版本、作品上映のおりのポスターなど、多くの関係資料を写真パネルや解説と合わせて展示し、関心を呼んだ。
（資料等の出品目録は「図録」添付につき省略）

●「船山馨の文学世界」（所蔵品展）

会　期	平成９年１月14日（火）～３月16日（日）	（52日間）
会　場	北海道立文学館特別展示室	
入場者	1,660人	



大正３年に札幌に生まれ、北海道の自然風土と、その土地にたくましく生きる庶民の姿を描いた船山文学の世界を、北海道立文学館の所蔵資料を中心に、初版本、貴重な遺品や直筆原稿、彫刻家の佐藤忠良による挿絵原稿など約300点の出品により紹介した。

「『北国物語』の頃」のコーナーでは作家になる以前に書いた演劇の草稿や、本格的な作家活動に入った昭和15年から17年にかけての日記、『北国物語』初版本や自筆原稿「旅の果」などを展示した。

太平洋戦争をはさんだ「混乱の淵から」のコーナーでは、太宰治の後をついで連載を始めた新聞小説、ヒロポン常用による執筆不能、苦悩の中からの立ち直りの時代を紹介した。

「開花する船山文学」のコーナーでは長編小説『石狩平野』『お登勢』などの直筆原稿、ドラマ化された際のスナップ写真や創作ノートなど、また「多彩な人間探求」のコーナーでは、船山の企業小説や推理小説を紹介した。「末期のまなざし」のコーナーでは、晩年自らの死を語り、遺書のつもりで描き上げたという『茜色の坂』、最後の日記や追悼記事、八木義徳の読んだ弔辞を展示した。

このほか、会場の一隅には船山馨の書斎を再現し、高見順から贈られた机や遺品、川端康成から贈られた掛け軸、佐藤忠良のデッサンも展示した。

会期中、ご遺族で長男の真之氏ご夫妻も訪れてくれた。

（資料等の出品目録は別掲）

(3) たんけん文学館

●「手島圭三郎の絵本の世界」

会　期　　平成８年８月２日(金)～８月18日(日)　　(15日間)

会　場　　北海道立文学館特別展示室

入場者　　2,417人

手島圭三郎は、昭和10年紋別市生まれ。昭和58年に『しまふくろうのみずうみ』で日本絵本大賞を受賞して以来、ボローニャ国際児童図書展など海外の絵本賞も多く受賞している。その作品には常に北海道の雄大な自然と動物たちの家族愛が描かれている。

今回の展示では手島圭三郎の絵本から７冊をとりあげ、それぞれから５～７点の木版画による原画と、それらが掲載された絵本のページを開いて合わせて展示した。

展示ケースの「ふくろうの夢」構想スケッチは墨とクレヨンで描き、自筆の文を書いたり貼ったりしたもので、作家の息づかいがじかに感じられたほか、会場内におかれたふくろうコレクション、バッジがもらえるクイズコーナー、毎日行われたスライド上映会も好評であった。

＜附帯事業＞

●手作り絵本教室（小学生対象）

講　師　　手島圭三郎

日　時　　平成８年８月９日(金)及び８月11日(日)

会　場　　北海道立文学館講堂

参加者　　120人

(4) ※「母と子の文学のつどい－作るよろこび、知る楽しみ－」

会　期　　平成９年３月18日(火)～29日(日)　　(10日間)

会　場　　北海道立文学館特別展示室

（司会・柴村紀代、出演・ねこやなぎの会）

入場者　　341人

展示室では昔の遊び道具に触れ、実際に体験することを通じて子どもたちの想像力や創作力を刺激する工夫をしたほか、毎日「リボンの騎士」（手塚治虫原作）のビデオ上映会を行った。

＜附帯事業＞

実技講習等（上記「母と子の文学のつどい」期間中）

「手づくり絵本教室」（２回、講師・当館学芸員）

「みんなで詩をつくろう」（講師・原子修）

「北海道の昔がたり」（講師・坪谷京子）　　入場者　　72人

連続講座「子どもの文化を考える」(上記「母と子の文学のつどい」期間中)

日時・講師・演題

平成9年3月18日(火)　吉村　　匠「マルチメディアと子どもの文化」

〃　3月22日(土)　木村　雅信「まどみちおの世界」(ロータス合唱団出演)

〃　3月25日(火)　谷　　暎子「戦後まもなくの北海道絵本」

〃　3月29日(土)　佐藤志美子「子どもを育てるわらべ唄」

入場者　　102人

2　講演会・講座等事業　[会場はいずれも北海道立文学館講堂、午後2時から]

(1)　文芸講演会

●演　題　「俳句－そのめぐり合い－」

講　師　　星野　紗一

日　時　　平成8年6月22日(土)

入場者　　90人

●演　題　「久保栄回想」

講　師　　山下　　肇

日　時　　平成8年10月19日(土)

入場者　　70人

(2)　文芸セミナー

●演　題　　「中野重治と北海道の作家たち」

講　師　　澤田　誠一

日　時　　平成8年7月13日(土)

入場者　　90人

●演　題　　「小説ができるまで」

講　師　　小檜山　博

日　時　　平成8年10月5日(土)

入場者　　80人

●演　題　　「文学に見る北海道の女性たち」

講　師　　藪　　禎子

日　時　　平成8年11月17日(日)

入場者　　50人

●演　題　　「船山馨の文学資料をめぐって」

講　師　　平原　一良

日　時　　平成9年2月1日(土)

入場者　　60人

(3) 独自企画講演会

※平成８年10月10日(木)　李　恢成「ソウル・私・サッポロ－この一年間のこと－」

聴講者　90人

(「李恢成文芸講演会・その後の会」と共催)

※　〃　10月26日(土)　平澤　秀和「昭和22年・本道出版ブームと疎開系出版社の活動」

聴講者　52人

(以上、会場は共に北海道立文学館講堂)

※平成９年　３月26日(水)　渡辺　淳一「私と小説」

聴講者　680人

(北海道新聞社と共催～会場はホテルライフォート札幌)

(4) 文芸映画上映会

●「安部公房の世界」

期　日　平成８年11月毎土曜日（４回）

「砂の女」(11月２日)「他人の顔」(11月９日)「燃えつきた地図」(11月16日、30日)

会　場　北海道立文学館講堂

入場者　350人

●フィルムレクチャー「安部公房と映像」

期　日　平成８年11月16日(土)

会　場　北海道立文学館講堂

講　師　高橋　世織

入場者　90人

Ⅲ　文学に関する調査研究事業

寄附行為第４条第３号に掲げる事業は、次のとおり行った。

●収蔵資料取り扱い等に関わる他施設の調査及び資料収集

大学図書館等資料受入れ・整理実態調査

●収集資料の分析・解説等のための調査研究及び特別展・所蔵品展の図録・リーフレット等作成のための調査研究

①久保栄関連資料調査

②船山馨関連資料調査

③素木しづ関連資料調査

Ⅳ　文学愛好団体等の活動に対する支援事業

寄附行為第４条第４号に掲げる事業は、次のとおり行った。

●「児童文学ファンタジー大賞」(絵本・児童文学研究センター＜小樽＞)関連行事に対する後援

①第１回児童文学ファンタジー大賞受賞作『裏庭』出版記念対談
（日時：平成８年10月31日、会場：北海道武蔵女子短期大学、出演：梨木香歩、神沢利子）
②講演会「気配への手がかりとして……宮沢賢治を読む」
（日時：平成８年11月２日、会場：小樽市民文化センター、出演：鶴見俊輔、河合隼雄）

Ⅴ　啓発広報事業

寄附行為第４条第５号に掲げる事業は、次のとおり行った。

●施設要覧、施設案内、常設展リーフレット、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行
●広報誌「サンクンガーデン」第２号（９月）及び第３号（９年３月）の編集発行
※「北海道文学館報」第45号（10月）及び第46号（９年３月）の編集発行

Ⅵ　刊行物の刊行事業

寄附行為第４条第６号に掲げる事業は、次のとおり行った。

●特別企画展「北海道の俳句」図録（Ｂ５判、32頁）の刊行
●特別企画展「久保栄と北海道」図録（Ｂ５判、32頁）の刊行
●ビデオ制作
「北海道文学アルバム－船山馨」（15分）の委託制作
※北海道文学ライブラリー第２集『渡辺淳一－ロマンの旅人－』の刊行

編　集	財団法人北海道文学館
発　行	北海道新聞社
部　数	5,000部
仕様等	新書判、182頁

Ⅶ　北海道立文学館の管理運営受託事業

寄附行為第４条第７号による道立文学館の管理運営は、北海道（北海道教育委員会）と当財団との間に交された委託契約（平成８年４月１日締結）に基づき適切に行った。

Ⅷ　その他の附帯事業

※文芸お楽しみバザール
平成８年10月26日（土）、文学館地階ロビーで実施。
（チャリティ・バザール実行委員会との共催）

（注）　● 本項中、※印の事業は財団の独自企画のものを示す。
● 文中、講師名等の敬称は省略した。